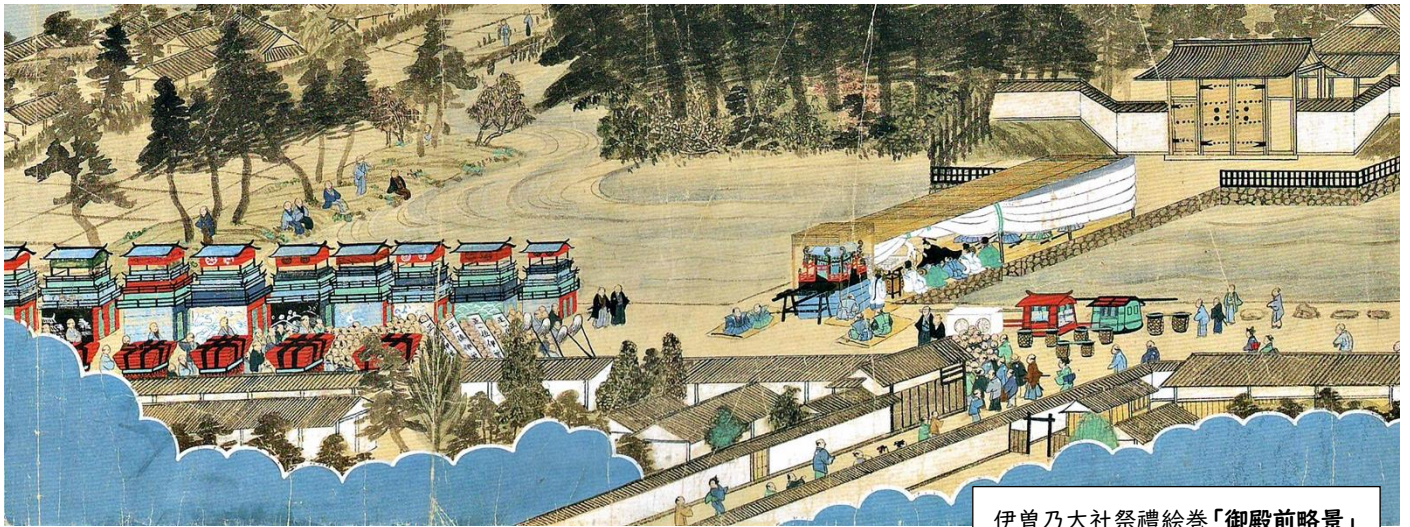




1636年～1869年(約230年)

# 伊予 西條藩を知る

(第二次西條藩)松平家 第9代藩主 松平頼学 (在任期間 1832～1862年)



伊曾乃大社祭禮繪巻「御殿前略景」

伊予西條松平藩は、江戸定府のため参勤交代の必要がなかった。藩侯の御国入りは稀で、中には一度も足を踏み入れない方もおられ、約200年間に御帰国された藩主は松平家10代藩主のうち5人で延べ10回のみであった。特に、**第9代西條藩主 松平頼学** (よりさと) 侯の御国入りは、享保14年(1729)3代藩主 松平頼渡 (よりただ) 侯から106年も経っており、待ち望んだものであり、時勢も安定しているだけに盛大を極め、大小**60隻**の大船団の行列で御国入り総数**483人**で御上がり場(市塚)に到着し、その間に伊曾乃神社祭礼上覧を果たした。



伊曾乃大社祭禮繪巻

天保6年(1835)3月に江戸を御出発し、5月に西條に着かれ、天保7年(1836)領国西條より江戸にお帰りになった後の事である、江戸城内大広間で**仙台62万石の藩主伊達侯**とお国の祭自慢に花を咲かせていた時に、それを聞いた頼学侯が「そのような祭りなどもの数ではない。西條の祭りを見てから言ってほしい。」と、伊曾乃神社祭礼を絵巻物に描かせて仙台の伊達侯に贈ったと言われている。それがずっと仙台藩伊達家に伝わっていましたが、昭和25年(1950年)に東京国立博物館の近藤喜博調査官を介して、伊曾乃神社に寄贈されている。この絵巻は、長さ26.7m、幅35cm(作者不明)で、大名行列と同じで約400人が描かれ、ダンジリ18台、神輿太鼓5台、船ダンジリ、鬼頭、鉄砲組、奴、神輿、諸道具類などを描いた『御神輿の渡御行列図』、西条藩士の礼拝する様子を描いた『御殿前略景』(下記写真)、御旅所の賑わいを描いた『御旅所略景』、『小供狂言之図』からなっています。そして、そのダンジリの行事に参加している人は町民でありながら、袴(かみしも)を着て、脇差しを差しており、祭りの日には士農工商の区別がなく、藩をあげてお祝いしていたということがうかがえます。天保年間製作(1840年前後)と推定される『**伊曾乃大社祭禮繪巻**』は、現在伊曾乃神社の宝物館にある。

